

第1回南伊勢町総合計画審議会 議事録

1 開催日時 令和8年3月26日（木） 9：30～12：15

2 開催場所 南伊勢町役場 南勢庁舎 3階会議室

3 出席者

【委員】

青柳委員、木下委員、島田委員、白髭委員、田中委員、野田委員、橋本委員、濱地委員、山本委員、池山委員、村林委員、島本委員、田中委員、玉山委員、西岡委員、濱口委員

※計16名出席（欠席4名）

【事務局】

広田副町長、小嶋まちづくり推進課長、小山政策係長 松尾政策係主査、奥政策係主査、山本総務課行政係主査

4 会議事項

- (1) あいさつ
- (2) 委嘱状交付
- (3) 委員紹介
- (4) 会長、副会長の選任
- (5) 総合計画審議会へ諮問
- (6) 総合計画策定についての説明
- (7) 総合計画の審議
- (8) その他

5 議事内容

- (1) あいさつ

広田副町長：

本日、町長は絶対出なければいけないということで調整しておったのですが、2日前に県の方からどうしてもと声がかかり、急遽出張となりました。町長からは「くれぐれもよろしくお伝えしてくれ」とのことでした。

この総合計画は、町の方向性を示す、町にとって一番大事な基本的な計画です。今回の会議は、後期4年間の行動計画を決め、毎年度の予算に何を事業化していくかを決めていくものです。前期計画でうまく行かなかったところや、社会情勢に合わなくなったところ、もっと取り入れていかなければいけないところを、活発な意見をいただきながら入れ替えていければと思います。

お一人お一人の思いや考え方は必ず反映されていきますので、それぞれの立場でたくさんご意見をいただきたいと思います。

- (2) 委嘱状交付

（上村町長欠席のため、各委員の自席に配布）

（3）委員紹介

青柳委員：

伊勢農業協同組合代表として来ました。農業者としてはまだまだ新米ですが、一個人の意見として参加させていただきます。

木下委員：

農業委員会を代表して、一生懸命町のために審議していきたいと思います。

島田委員：

区長連絡協議会会長として、皆さんと一緒に勉強しながら参加させていただきます。

白髭委員：

南伊勢町民生委員児童委員協議会から来ました。あちらに見えます濱地委員と一緒に 2 人でお伺いさせていただいております。どうぞよろしく願いいたします。

田中委員：

商工会の田中です。南伊勢の深いところまで全然わかっていない自分ですけど、こちらの方で学ばせてもらい、町のためになれるよう頑張りたいです。

野田委員：

社会福祉協議会の野田です。どうぞよろしく願いいたします。

橋本委員：

観光協会から来ました橋本です。普段は阿曾浦で養殖業を営んで養殖のフィールドを使って観光業にも携わっております。

濱地委員：

民生児童委員協議会から来ました濱地です。よろしく願いいたします。

山本委員：

南伊勢町校長会の山本です。中学生、小学生の声を届けさせていただければと思います。

池山委員：

皇學館大学の池山です。大学では地域連携などを担当しており、南伊勢町さんには学生の受け入れなどでお世話になっています。微力ながらお手伝いできればと思います。

村林委員：

三重中京大学名誉教授と書いていますが、長らく県の職員をしておりましたので自治体の職員として理解していただけたらと思います。地方自治についてお役に立てればと思っております。

島本委員：

フィッシャーマンジャパンの島本です。わが社としては水産業の担い手育成に携わらせてもらっており、私も集落支援員として毎月行ったり来たりしながら水産業に携わっています。

田中委員：

みなみいせ図書室の田中です。図書室の仕事を通して地域の方々と触れ合う機会をいただいております。こちらの会でも、私の知らないことをいっぱいお聞かせいただけるかなと思っています。

玉山委員：

みなみいせ元気ネットの玉山です。健康づくりやスポーツを通していろいろなことができるようにというのを目標にして頑張っています。よろしく願いいたします。

西岡委員：

NONKI合同会社の西岡です。昨年の7月に特定居住支援法人として認定いただきました。4月から空

文責：まちづくり推進課（事務局）

き家バンクの運営や移住定住コーディネーター、二地域居住コーディネーターを弊社で抱えてや
っていく予定です。メインは五ヶ所地区でうみべのいえプロジェクトという空き家を部屋に代え
ていって一緒に使うことでコミュニティを再生するプロジェクトをしています。

濱口委員：

NPO法人わがらの濱口です。宿田曾地区で高齢者支援事業を行っております。

事務局紹介

小山政策係長：

まちづくり推進課政策係長の小山と申します。よろしくお願ひします。

松尾政策係主査：

同じくまちづくり推進課政策係の松尾と申します。本日はよろしくお願ひします。

奥政策係主査：

同じく政策係の奥と申します。4月から、課内異動で行政チャンネルの方に異動させていただく
ことになりましたが、今回、関わらせていただきたいと思います。

山本総務課行政係主査：

総務課の山本と申します。4月から政策係に携わるということで今回同席させていただいておりま
す。

（4）会長、副会長の選任

（会長を村林守氏、副会長を島田正文氏とすることを全会一致で可決）

村林会長：

役場と委員の皆さんが「どんなまちづくりをしようか」と、現場の意見と役場の思いをぶつけ合
う、素晴らしい会だと思っています。現場を熟知している副会長さんのお力も借りながら、また
今回は専門家の池山先生に入っているのので、アドバイスをいただきながら、私として
はまとめ役を務めてまいります。

島田副会長：

会長から『現場を熟知している』とのお言葉をいただきましたが、私自身は初めての参加であり、
大切な総合計画の会だとは思っていますので、勉強しながら一生懸命副会長を務めてまいりたい
と思います。

（5）総合計画審議会へ諮問

（広田副町長より「南伊勢町総合計画後期基本計画について」の諮問が行われた。）

（6）総合計画策定についての説明

（事務局より説明）

（7）総合計画の審議

村林会長：

それでは、恐縮ですが進行させていただきます。この会議のルールとして、必ずご発言いただく
ということを決めたいと思います。順番に手を挙げていただくのも良いですが、1回はご発言いた

文責：まちづくり推進課（事務局）

だくということで、順番にぐるっと回っていくのはいかがでしょうか。質問やご意見をまとめてお話しいただき、事務局への質問については、すぐ答えた方がよいものはその場で、その他は後でまとめて事務局や副町長から思いを込めてお話しいただく、という進行を進めたいと思います。

今回は基本計画をご審議いただくわけですが、いきなり案に対して意見を求められても発言しにくい部分もあるかと思います。具体的な審議の前に、それぞれのお立場で日頃感じていることや、町づくりへの思い、提言などを自由にお話しいただければと思います。まずは濱口委員から順番に一言ずつお願いし、最後に副会長、そして池山先生には皆様の発言を受けて専門的な視点からコメントをいただくという形にしたいと思います。

濱口委員（NPO法人わがら）

- ・高齢者のみの世帯に対する見守り体制の更なる強化。
- ・南海トラフ地震を想定した、一時的ではない継続的な防災対策の実施。

「私は宿田曾地区で『わがら』というNPO法人の中で、高齢者支援などに携わって5年が経ちました。始まりの時と今でもやはり問題は同じで、高齢者だけの世帯がどんどん増えており、見守りの重要性は増すばかりだと感じています。町全体の高齢化率が高くなり、元気がなくなってきたことを常々感じており、そこをどう盛り上げていくかが重要です。

もう一点は防災関係です。南海トラフ地震に備えた対策は一度やったら終わりではなく、継続して取り組んでいく必要があります。この『高齢者問題』『地域の活性化』『防災』という3つの大きな問題に対し、色々な対策や行動を起こしていきたいと考えております。」

西岡委員（NONKI合同会社）

- ・観光や滞在の受け皿、住める状態の空き家、二次交通の課題解決。
- ・二地域居住等を推進し、町外の人が町に関わり続けられる「関係人口」の仕組みづくり。

「私は2018年に名古屋から移住し、移住者の立場で空き家の活用や町の活性化に取り組んでいます。この町は人の温かさ、豊かな自然、素晴らしい景観、そして一次産業という誇るべきものがあり、それを未来に繋げようという意思を強く感じます。私自身、出張先から「早く帰りたい」と思えるいい街だと感じており、そのような価値を、これからさらに広げていくことが大事だと思っています。

現場で活動する中で感じるのは、観光や滞在の受け皿、住める空き家、二次交通といった課題です。ただ、これらは「課題」というより「余白」であり、これから官民協力して作っていただける部分だと思っています。二地域居住などの取り組みを通じ、人が関わり続けられる仕組みを形にしたいと考えています。この計画が単なる計画に終わらず、実際に行動できる形になるよう、その一員として関わっていきたいです。」

玉山委員（みなみいせ元気ネット）

- ・ハード面の整備に加え、高齢者が自力で避難できる「脚力・体力作り」を政策として重視すること。
- ・避難の重要性について、行政からも積極的に情報を発信すること。

・利用者の視点に立った社会体育施設の長寿命化と整備の推進。

「私は運動やスポーツを通じて、町内の方々が心身ともに健康になることを主軸に活動しています。私自身も15年前にUターンで戻ってきたのですが、東日本大震災をきっかけに「故郷のために自分ができること」として防災意識の向上に取り組んできました。

中学生の提言にある「安全な避難環境の整備」に関連してですが、私はインフラ整備だけでなく、高齢者が自らの足で避難できる体作りを重視していただきたいと考えています。現在、町内9カ所で13年続けている健康教室には年間延べ6,000人が参加していますが、これは単なる健康作りの場ではなく、命を守るための基礎体力作りです。

以前、高台の避難所ができた際に「あんなところは登れん」という声を聞き、「なら登れる体を作ろう」と始めたのがきっかけです。6分間同じペースで歩き続けられる脚力は、避難行動に直結します。高齢化率が高い本町において、「避難できる体を地域全体で作る」という視点を共有し、実際に逃げ切れる人を増やしたいと思っています。また、社会体育施設の整備にあたっては、子供たちが運動を好きになる仕掛けや、シニアがいつまでも体を鍛えられる環境を維持していただきたいです。」

田中委員（みなみいせ図書室）

・世代を超えた交流の場としての図書室の活用。

「みなみいせ図書室では「人々の心に温かな灯をともし」という理念で日々取り組んでいます。図書室の利点は、赤ちゃんから高齢者まで世代を問わず利用いただけることです。そこでの再会や新しい出会いがあり、従来の「静かにしていなければいけない場所」というより、出会いの場でもあると感じています。

子供たちの成長を見守れる幸せを感じる一方で、高齢の方が来られなくなる現実も目の当たりにしています。本と人、そして人と人が触れ合える場所にしたいと考えており、本を通じて疑似体験をしたり人の気持ちを想像したりできる場所でありたいです。予算の制約もあり期待に添えないこともありますが、県内から本を取り寄せることもできます。図書室があるからこの町が好きだ、住み続けたいと思っていただける方が一人でも増えるよう、日々努めてまいります。」

島本委員（フィッシャーメンジャパン）

- ・子供たちが水産業の意義を理解できる「ふるさと学習」等の機会充実。
- ・誘致企業による地元雇用の創出と地域への還元。
- ・集落単位の枠を越えた、地域間の横の連携による支え合い体制の構築。

「日頃から漁師さんや役場の方々と関わらせていただいておりますが、本当に明るく愉快的な町だと感じています。今回の計画にある「未来志向（バックキャスト）」の考え方は非常に素敵で、我々も水産業をどうしていくべきか皆さんと行動していかなければならないと思っています。

中学生からの提言も真摯に受け止めなければなりません。子供たちが水産業に触れるだけでなく、なぜそれをやっているのかを理解できる機会を学校と共に作っていきたいです。

文責：まちづくり推進課（事務局）

企業誘致についても議論がありますが、外から入る企業が地元の雇用や還元にどう繋がるかが重要です。今はまだ模索段階の企業も多いですが、段階を踏んで地域の活性化に貢献できればと考えています。また、防災についても宿田曾地区のような素晴らしい事例を町内全域に広めていきたいです。人口減少が進む中、これまでの集落単位のパワーを維持しつつ、集落を超えた横の繋がりで支え合っていくことが、水産業に限らず必要になってくると感じています。」

山本委員（小中学校校長会）

- ・ 子供たちの提言や発想を継続的に行政計画や施策に反映させる仕組みの維持。

「私は4年前に赴任し、町全体で「ふるさと学習」に取り組んでいることを知りました。町全体が学校と一緒に動くことで、子供たちが町を知り、誇りに思う気持ちが非常に高まっていると感じています。

ふるさとフォーラムについてですが、3年ほど前から中学生には、単なる感想ではなく「自分たちの思いをどう行政に働きかけていくか」という一段階上の発信を求めてきました。それが今回の総合計画に反映されたことは非常に嬉しく思います。子供たちは、自分たちの考えが生かされていると感じることで、より積極的に町に関わっていくはずで、今後も、児童生徒ならではの自由な発想を計画に盛り込み、活用していただければと思います。」

濱地委員（民生児童委員協議会）

- ・ 独居高齢者の食の確保や通院など、外出困難者に対する具体的かつ緊急性の高い生活支援策の策定。
- ・ 介護サービスの人手不足（ヘルパー不足）に対する解消策の検討。

「今の皆さんの素晴らしいお話を聞いて、まず「素晴らしいな」という一言が頭に浮かびました。私は旧南島地区で民生委員をしています。正直なところ、一人暮らしの年寄りの対応に日々四苦八苦しています。救急車が走れば「どこの家だろう」とLINEで連絡を取り合い、子供さんが遠方にいれば連絡を取らなければなりません。

先ほどのような活動に出かけられる方は良いのですが、出かけられない方、一人で食べることも病院へ行くこともままならない方がたくさんいます。電気がついていない、買い物に行けていない、そんな出来事が日々起こっています。子供さんが遠方で、病院への付き添いを誰がするのか、本当に必死な状況です。

私たちにできるのは行政とのパイプ役だけですが、田舎ゆえに踏み込みすぎて難しい思いをすることもあります。介護認定を受けてもヘルパーさんがいないなど、切実な問題も多いです。こうした「出かけられない人たち」への改善策を、ぜひ行政と一緒に考えていきたいです。」

橋本委員（観光協会）

- ・ 若者が自発的に家業や地域を継ぎたいと思える魅力的な環境整備。
- ・ 外部の知恵を取り入れるための学生インターンシップや関係人口の積極的な受け入れ。

「私は阿曾浦に住んで23年になります。昔はもっと人口も多く、活気がありました。自分も年を重

ねる中で、自分に何ができるかを日々考えています。

私には4人の息子がいますが、若者が「自発的に」この町に魅力を感じ、家業を継ぎたい、町を守りたいと思える環境をどう作るかが課題です。それには「関係人口」を作ることが非常に大事です。西岡さんや島本さんのような方、そしてインターンシップの学生さんなど、町外の方が関わってくれることで、外からの知恵を借りることができます。それがやがて、南伊勢町の子供たちの財産になっていけばいいなど、いつも願っています。」

野田委員（社会福祉協議会）

- ・深刻化する福祉分野の働き手不足に対する、町を挙げた支援と対策。
- ・高齢者の移動手段の確保や地域での居場所づくりの推進。

「資料を拝見し、昔と比べて「福祉をみんなのこと、自分たちのこと」として捉えてくださる方が増えたと感じ、協力や繋がりを求めやすくなっていると感じました。

社協として関わる分野は多いですが、特に「福祉の働き手不足」は深刻で、現在進行形で事業所を閉めるという声が聞こえてくるほど悩ましい課題です。高齢者の移動手段や交流の場づくりなど、地域の方々の声を聞きながら少しずつ進めています。民生委員さんのお話にもあった切実な思いを受け止め、皆さんのご協力をいただきながら、この計画を基に引き続き取り組んでまいります。」

田中委員（商工会）

- ・中規模店舗に偏りがちな商品券事業の仕組みの見直し、小規模事業者が事業承継の意欲を持てるような直接的・実効的な支援策の検討。
- ・町外教育機関等へ向けた町の産業の強みを生かした町の魅力発信機会の創出。

「商工会の職員として率直に感じるのですが、プレミアム商品券などの事業は住民には喜ばれますが、実際のデータを見ると、恩恵を受けているのは中規模な店舗が圧倒的です。長年地域を支えてきた小規模な商店までなかなか潤いが届いていないのが現状です。

「毎回同じ形の商品券事業」ではなく、小規模事業者が「これなら事業を継承したい」と思えるような、別の形のメリットがある支援ができないかと考えています。

個人的な話ですが、大阪の小学校で先生をしている姉が、本町の漁業をテーマにした授業を行いました。橋本さんの会社に協力いただき、子供たちは漁師さんの魅力や命の大切さを学び、橋本さんは子供たちのヒーローだったそうです。こうした、町を知っていただくきっかけを一つでも増やしていければと思います。」

白髭委員（民生児童委員協議会）

- ・子供たちの「生き抜く力」を育むため、町の自然資源を最大限に活用した体験や教育プログラムの充実。
- ・「子供がイキイキと育つ町」としてのブランディングと環境整備。

「白髭委員：

今回、何年か前に同じような会議に出た際に「保育園や病院を高台に」という話があったの

文責：まちづくり推進課（事務局）

を思い出しました。今ではそれが実現されており、私たちの意見を取り入れてくださる姿勢に感謝しています。

質問ですが、「キラキラ教室」は何年前からありますか？

広田副町長：

構想は9年ほど前からで、実際に始まったのは7、8年前でしょうか。

白髭委員：

ありがとうございます。8年経つと、体験したお子さんも大きくなっていますね。英語力がどれくらい上がっているのか気になります。

広田副町長：

実は、キラキラ教室は英語力そのものというより、子供たちの好奇心を芽生えさせたいという思いで始めました。穏やかな町の中で、ネイティブの方と当たり前に触れ合うことで目がキラキラ輝くような体験を重視しており、英語力の調査までは行っていません。ただ、保護者の方からは非常に好評をいただいています。

白髭委員

なるほど。子供たちが日常的に「パーポー（Purple）」などと口にするのを聞いて、プラスの体験になっているとは感じていました。

一方で気になるのは、最近の子供たちの「体験不足」です。核家族化で失敗をフォローしてくれるおじいちゃん、おばあちゃんが減り、そのしわ寄せが先生方に行っています。手先も不器用になり、発想も乏しくなっているように感じます。昔なら園児ができることが、今は小学生レベルになっています。

AI時代を生き抜くには、自分で作り出す力、行動力が大事だと言われます。しかし、外は危ないと言われ、家でゲームばかりしていると、握力も落ち、鉛筆も上手く削れません。この町には山も海もあります。他ではできない体験をどんどんさせてあげて、若い親御さんが「南伊勢町に行けば子供がイキイキする」と思えるような町にしていきたいですね。」

木下委員（農業委員会）

- ・若者だけでなく、65歳前後の定年世代を対象とした「定年帰農」と空き家活用によるUターン促進。
- ・都会に出た出身者がいつでも戻ってこられるような、町全体の「受け皿」としての意識醸成。

「私は今年74歳になります。前回、前の副会長から「座っているだけでいいから」、高齢の方もいることが大切と言われて今日も出席させていただきました。

農業委員会は20名で構成され、農地の適切な利用などを審議しています。中学生や小学生の提言は本当に素晴らしい。これだけ真剣に考えている子供たちのために、我々が次世代に何を残せるかを真摯に考えなければなりません。

農業の現状ですが、水田が90ヘクタール、みかん園が60～70ヘクタールほどあります。伊勢農協が海外へ輸出するなどの取り組みもありますが、高齢化は深刻です。

私は「若者定住」だけでなく、65歳前後の「定年帰農」によるUターンをもっと推進すべきだと思います。お金もある程度持っており、空き家を活用して田舎で暮らすには、南伊勢町は最高の場所です。

また、子供たちへの教育も大事です。8年ほど前から田植えや稲刈りの体験を始めました。世界で日本が一番恵まれていること、食べ物を大切にすることを教えています。都会で傷ついた

文責：まちづくり推進課（事務局）

時でも、いつでも羽を休めに戻ってこられるような、役場をはじめ町全体が手を広げて待っている、そんな「オール南伊勢」でありたいと思っています。」

青柳委員（伊勢農業協同組合）

- ・新規就農者が土地を借りやすくなるための、地域と行政の橋渡し機能の強化。
- ・専門知識を持ち、継続的に相談に乗れる担当者（支援者）の配置。
- ・専業に限らない「副業的農業」や多角的な働き方の提案による担い手確保。
- ・車を持たない世代も生活できる二次交通等のインフラ整備と、ソフト面の防災対策の強化。

「私は7年半前に農業がしたくて移住してきました。地域おこし協力隊として3年間指導を受け、今は切原でみかん栽培をしています。

移住当時、一番苦勞したのは「土地が借りられない」ことでした。知らない人には貸したくないという壁がありましたが、一人の方が貸してくださると「あの人が貸したなら」と徐々に広がっていきました。しかし、この7年の間にも、貸してくれなかった畑がどんどん耕作放棄地になり、寂しい状況になっています。

農業を始めるのは初期投資が大変ですが、協力隊の制度は生活基盤を整える上で本当に助かりました。ただ、役場の担当者が数年で変わってしまうのは難しい点です。農業のことが分かり、地元ともパイプがある担当者がいてくれるとスムーズなのですが。

みかん栽培は天候に左右され収入も不安定ですが、自由な時間があるため子育てとの相性は良いです。子供が急に休んでも、畑にいればすぐ駆けつけられます。こうした「副業としての農業」や「主収入を別に持つ形」など、小規模でも担い手を集めていかないと、この町のみかん文化は消えてしまうと危惧しています。

子供たちの移動手段の確保や、車なしでも生活できるインフラ、そして「都会ではできないソフト面の防災意識の高さ」など、生活基盤を強固にすることが、ひいては農業の担い手確保にも繋がると信じています。」

島田副会長（区長連絡協議会）

- ・住めない空き家の解体撤去（処理）と、住める空き家の移住者への提供（利用）の両輪での施策推進。
- ・「生活のすべてが福祉である」という広い視点に立った、障害者支援を含む包括的な地域づくり。

「皆さんお話が上手で驚きました。私は20軒ほどの小さな竈方集落の人間ですが、一族のような結束力があります。

農業についても、後継者がいないなら「酒米を作ろう」と単純な発想から始め、耕作放棄地の解消に繋げてきました。また、牛を放牧するなど色々なことに取り組んでいます。

空き家については「処理」と「利用」の両面が必要です。私の地区では20軒中3軒が移住者です。一族でなければいけないという考えは捨て、積極的に受け入れています。

最後に、内閣総理大臣だった田中角栄さんの言葉を引用します。「福祉は生きている全てである。」生活すること全てが福祉だという視点で、障害者支援も含め、これからも責任を持って頑張っていきたいと思っています。」

（この後、池山委員によるまとめと、事務局からの素案説明）

池山委員

- ・「住んでいる人」に限定せず「南伊勢町を好きな人」を含めた、より広義な「オール南伊勢」でのまちづくり。
- ・人口減少した未来の姿から逆算した「幸福の形」の具体的検討。
- ・町内の素晴らしい活動や資源を、町民が正しく認知し共有するための情報発信の工夫。

「まとめると言うのはなかなか難しいところがあって、まず、お聞きをさせていただいた上で、皆さんこれからこのような視点で議論いただいたら、いかがですか？というのは提案とさせていただきますと思います。まず提案に入る前に、今日私、来て驚いたのですが、色々などころの審議会にお邪魔しますが、審議会の「お菓子」は普通出ないんです。これは南伊勢町さんが「たくさん皆さん意見を出して、みんなで話し合っ、また南伊勢の未来を決めていこうね」というお気持ちだなという風に受け取って、しっかりと全部いただきました。そんなところからスタートしているということ、まず皆さんご理解いただきたいなと思います。

3点お話しさせていただきます。

1点目は、「オール南伊勢」ということを掲げていただいています。これからはもちろんオール南伊勢なのですが、私たちは未来のことを今考えていますので、その「オール南伊勢」がこれからさらに拡大していかないといけない、ということですよ。今関わっていただいている方、ここに住んでいる方、関わっている方がいらっしゃいますが、この輪がもっと広がっていかないといけない、ということですね。

人口5,000人という人口ビジョンを持っていただいています。例えば住んでいる人は5,000人だけれど、南伊勢町のことが好きでやってくる人が5,000人いたっていいわけじゃないですか。そうしたら今と同じ1万人ぐらいが関わる、みたいなこともあり得るわけですから、その「拡大オール南伊勢」ということを念頭に置いていただきたいな、ということです。

2点目ですが、この基本計画の中にある「バックキャスト」という考え方があります。バックキャストは将来像をイメージして、それを実現していくためにこれからはどうあるべきかを考えるという手法ですが、そのバックキャストする未来というのを今一度ご相談いただきたい。今1万人の人口が5,000人になる未来ですから、単純に言えば集落の家が一軒飛ばしになるということです。自分とここに住んでいたらお隣はいない、その次はいる、という状況ですね。その人口の状態で「幸せになる」ということはどういうことか、そのために必要なものは何か、という視点を持っていただけたらなと思います。

3点目、最後になりますが、どうしてもこういうお話をすると、高齢化率が高い、人口が少なくなっている、1人暮らしが多い、という「課題」に顔が行きがちです。課題はもちろん右手に持ちながら、左手で今皆さんの暮らしを成り立たせているもの、今の暮らしを成り立たせているサービスや資源を今一度見ていただきたい。

今日お聞きした素晴らしい取り組みが町内で情報として行き渡ることが大事だと思いました。この3点、「拡大オール南伊勢」、「未来はどんなものか再考」、そして「今の生活を成立させ

文責：まちづくり推進課（事務局）

ているものを町民が知る工夫」にご注目いただきながら、今後も活発なご議論をいただけたらありがたいなと思いながら聞いておりました。一旦以上とさせていただきます。」

村林会長

非常に力強いおまとめをいただき、ありがとうございます。それでは、事務方の話をいただきましょうか。山本さん、奥さん、松尾さん、小山さんの順番でいいですか？

山本主査

「ちょっと異動前だったので見学にと思って来たところ、簡単に思っただけ喋らせてもらいます。私、宿田曾出身で、宿田曾では「宿田曾有志会」や「なぶら太鼓」をやっていたり、祭りの運営に関わったりと、南伊勢が楽しくなる仕組みができたらなと思って活動しています。

総合計画の話ですが、計画にしっかり書くということは「思いを込めて書く」ということがすごく大事だと思っています。以前、福祉を担当していた時に「障害福祉計画」を作りました。その時に「グループホームを作る」「デイサービスを作る」ということを計画にちゃんと書きました。結果、その計画はちゃんと達成されました。しっかり思いを持って書ければ叶うと思っていますので、これからも一緒に総合計画づくりに携わらせてもらいたいと思っています。」

奥主査

「本日はありがとうございました。皆様の貴重なご意見を聞かせていただいて、町内にある色々な視点からの課題と、将来の可能性に繋がっていくようなことがそれぞれリンクしていると感じました。池山先生が言っていた「情報を町内に行き渡らせること」は本当にその通りだと思いました。私、4月から広報情報係の方へ異動させていただきますので、町の情報をより皆さんに伝えられるよう、引き続き関わらせてもらいたいと思っています。」

松尾主査

「まちづくりをしていく上で、役場がどうしたいかというわけではなく、やはり地域の皆様の声や思いを大切にしながら進めていかなければいけないと、大変勉強になりました。普通の業務では外に出ることが少なく、地域の方と関わるのが少ないので、こうした場で皆様の意見を聞かせていただき、しっかり受け止めて計画に反映させていければと思っています。」

小山係長

「今回、基本計画の素案を書かせていただくにあたって、振り返る会議や町民アンケート、小中学生の発言など「オール南伊勢」をいかに反映していくか、なるべく取り入れていきたいという思いで作らせていただきました。将来の姿や人口問題がある中で、いかに「未来思考」で作り上げられるかを考えていますが、どうしても現実的になってしまう部分があります。審議員の皆様の強い思いを聞いて、それをしっかり反映していきたいと感じました。」

小嶋課長

「今日は貴重なご意見ありがとうございました。まちづくりは役場だけでできるものではありませんし、民間の方にお任せきりでも進みません。役場と民間、色々な団体が一緒になって進めていく必要性をひしひしと感じました。副業の活用や、わがらさんが宿田曾地区でやっている活

文責：まちづくり推進課（事務局）

動をどう横展開し、集落の隅々まで行き渡らせることができるのか。それを計画に落とし込み、単なる「絵にかいた餅」にならないような、実際の計画を作ればと思います。」

広田副町長

「休憩時間に皆さんがお話しされている姿を見て、総合計画審議会がこういう場になって本当に良かったなと思いました。お互いに話をして繋がっていくところが何より大事です。計画に書いたことに対する「責任」として、やりたいことは絶対書こう、そして絶対やろうという思いで進めてまいります。この会議は長くなりがちですが、どうぞお付き合いいただきますようお願い申し上げます。」

資料6「南伊勢町総合計画基本計画（素案）」の概要説明

村林会長

事務局から資料6について説明を聞いて、それを持ち帰って次回までに意見をまとめていただくということにしたいと思います。

（事務局より説明）

小山係長：

資料6「総合計画 後期基本計画素案」をご覧ください。

1ページの「施策体系図」に基づき説明します。基本構想に基づき32の施策を整理していますが、図の中央を縦に貫く矢印が、今回設定した「7つの重点プロジェクト」です。各課の施策をバラバラに実施するのではなく、横断的に連携して相乗効果を狙うのが特徴です。

重点1：活力ある産業・経済プロジェクト（3ページ）

目標は「地域資源の協創（リデザイン）と抜本的強化により、子供たちに継がせたいと思う仕事生まれ続ける町を創る」です。ICTを活用したスマート化支援や、「海業（うみぎょう）」の推進、町内各所での「まちじゅうどこでも産直市場」の整備を掲げています。

重点2：安全安心のまちプロジェクト（5ページ）

大規模災害への適応策として、南島地区小学校の高台移転を確実に進めます。日常の安全対策では、インフラの長寿命化や交通手段の対策を進めます。

重点3：子育て応援プロジェクト（7ページ）

「若者・女性・子育て世代に選ばれる環境」を整えます。給食費無償化の継続や結婚支援金の拡充、移住定住コーディネーターによる伴走支援に重きを置きます。

重点4：誰もが元気なまちプロジェクト（9ページ）

「超高齢社会に適応し、誰もが安心して暮らせる町」を目指します。オンライン診療などのデジタル技術の導入可能性を調査し、医療アクセスの確保を目指します。

重点5：輝きをもてるまちプロジェクト（11ページ）

「オール南伊勢」で挑戦を支えます。祭りやイベントを通じたコミュニティ強化や、中学生の提言を反映したマイクロプラスチック対策、フードロス削減などを盛り込んでいます。

重点6：買い物不便・困難者対策プロジェクト（13ページ）**

地域特性に応じた仕組みで日常生活を守ります。地元店舗の維持支援に加え、移動支援の強

化や外出困難者へのソフト対策を進めます。

重点7：健全な自治体経営・未来投資プロジェクト（15ページ）

今回新たに設定したプロジェクトです。20年後に人口が5,000人と半減する未来は避けられません。この4年間で組織やサービスのあり方を最適化し、生み出した予算や時間を「未来投資枠」に充てることで、持続可能な経営への転換を目指します。

総合計画全体として、町民アンケート、中学生の提言、小学生の発言、役場ワーキングでの意見を取り入れています。

（その他）事務連絡および閉会の言葉

村林会長：

どうもありがとうございます。ちょっとご意見などを受け承る時間がないので。ここに書いたことは実行していただけるということですので、ここに書くべきことが漏れていないか、あるいはこれはいいんじゃないかというようなことを中心に、また資料をご覧いただいて次回の意見としてお持ちください。

次回ですけど、事務局の方から、この後の予定についてお聞きしたいと思います。

小山係長：

次回に関しましては5月下旬頃か6月上旬頃、また、第3回につきましては6月下旬から7月上旬ぐらいで検討させていただきたいと思っております。

お手元の方に日程調整のご依頼の文書を置かせていただきました。この場でチェックいただきまして回答いただくか、もしくは入力フォームがございますので、また可能な日時をご回答いただきまして、改めて調整の上、ご返事させていただきたいと思っております。予定としては次回が5月末か6月上旬を予定しております。以上です。

村林会長：

では、お手元の日程（調整）によろしく願います。

これで第1回南伊勢町総合計画審議会を終了したいと思います。

以上